

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

10号

2008年2月29日

ひと・まち おもう気持ちは みないっしょ

それぞれの地域を原点とし
それぞれの願いをもって

それぞれのやりかたで
それぞれの心をこめて

それぞれのデザインを描き
それぞれの魅力が備わり

それぞれの愛着と誇りをもって
それぞれみんなで育み

それぞれの思いがほとばしる
熱く 強く

それぞれの熱い想いをひとつに
動きはじめるまちづくりのしくみ

“まちづくりファンド”
こんなまちづくりに
少しでも役に立てれば万感！



公益信託 「高知市まちづくりファンド」とは

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐（しゅつえん）して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学び場になることを目的としています。多くの人にまちづくりに関心をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営を目指しています。

「まちづくりはじめの一歩」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 定額5万円（活動事業費が5万円未満の場合は、全額助成）

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

助成金額 活動事業費の $\frac{3}{4}$ 以内で、上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査会で助成先を決定します。

お問い合わせ先：高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

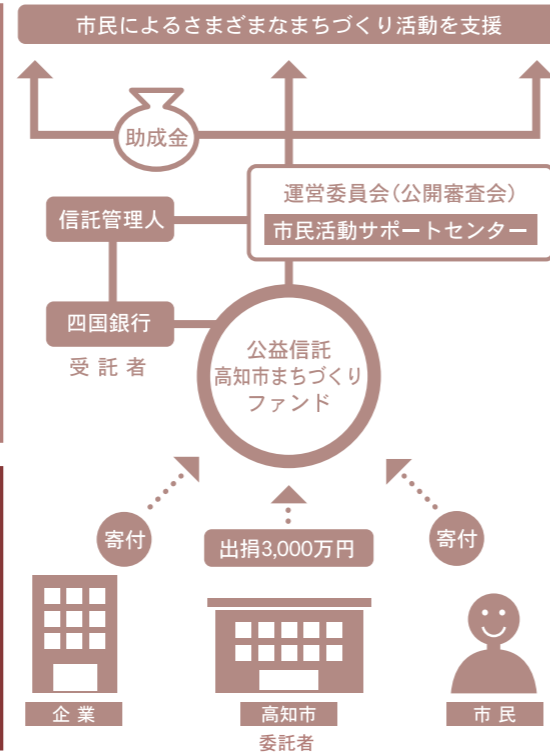
「まちづくり大きな一歩（ソフトからハードへ）」コース

高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にしていきたいために行うまちづくり整備事業を支援します。

助成金額 上限300万円（助成率100%）

審査方法 第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体に、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成し、現地調査後、第2次公開審査会において発表していただき、公開審査会で1件程度、助成先を決定します。

お問い合わせ先：株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当 TEL 088-871-2178



四国銀行コメント 株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていきたいためのお手伝いができるよう努めていきます。

高知市市民活動サポートセンターコメント

当サポートセンターでは、まちづくりファンドの申請に関する相談や、公開審査会等の運営のお手伝いをしています。皆さまのまちづくりに対する想いを実現できるよう、支援していきたいと考えています。まちづくりファンドの申請に関すること、また、まちづくり活動や市民活動に関すること等、いつでもお気軽にご相談ください。

私たちもお手伝いします。

まちづくりファンドは 皆様がまちづくり活動を 支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に生かされるように、多くの皆様のご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、
下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

電話：088-871-2178（直通）

高知市 市民活動 サポート センター

市民に利用していただき、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

2008年のまちづくりファンド(予定)

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

「まちづくりはじめの一歩」「まちづくり一歩前へ」コース

2007年度助成事業

最終活動報告書の提出期限 **7月16日(水)**

最終発表会 **8月2日(土)**

2008年度助成事業

応募受付期間 **5月20日(火)～6月20日(金)**

公開審査会 **8月3日(日)**

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

2007年度助成事業

中間発表会 **8月2日(土)**

2008年度助成事業

応募受付期間 **5月20日(火)～6月20日(金)**

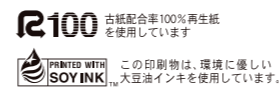
第1次公開審査会 **8月3日(日)**

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

TEL: 088-820-1540 FAX: 088-820-1665

E-mail: npokochi@siminkaigi.com [URL] http://www.siminkaigi.com



目次

2007年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 中間発表会

中間発表会の流れ	2
プレゼンテーション	
「まちづくりはじめの一歩」コース	2
「まちづくり一歩前へ」コース	3
中間発表会を終えて	5

2007年度 公益信託高知市まちづくりファンド 「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース 第2次公開審査会

第2次公開審査会の流れ/プレゼンテーション	6
一次判断を終えての質疑	6
事務局よりご報告/第2次公開審査会を終えて	7
公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定	8

中間発表会

中間発表会の流れ

2008年1月26日(土)、公益信託「高知市まちづくりファンド 中間発表会」が開催されました。参加者(応募団体・一般・関係者)は約70名。2007年8月5日(日)開催の公開審査会において助成決定を受けた12団体が、事業の進ちょく状況を発表しました。意見交流では和やかな雰囲気の中、さまざまな意見が飛び交いました。

1 プレゼンテーション 2 付せん貼りタイム 3 意見交流



各事業の進ちょく状況とともに、工夫している点、困っている点などを3分間で発表。参加者に、各事業についての質問・良い点・提案・その他の意見など、付せんを書いてもらう。



記入済みの付せんを団体ごとに貼ってもらう。



運営委員が貼られた付せんの内容を団体ごとに紹介し、参加者との意見交流を実施。

「まちづくりはじめの一歩」コース プレゼンテーション

GROUP 1 わすれんぼドリー

働く親と子の子育て支援



9月に親子料理教室を開催、10組28名の参加があった。名札を用意し、参加者の名前が分かるように工夫した。以前、料理教室を開催した際は料理にすごく時間がかかり、交流の時間をとることができなかった。今回はメニューを簡単なものにし、料理の後、交流の時間をもつことができた。10、11月には広報紙を作成し、会員に配布するとともに、周辺への配布もお願いしている。クリスマス会を開催した際は、いらなくなったものを各家庭から持ち寄ってお店屋さんごっこをし、お金を発行して買い物を楽しんだ。

VOICE

- お屋さん(通貨を作成)から、もっと広がりを作れそう。
- 父親が参加しているところがいい。お父ちゃん、がんばれ!
- とても楽しそうな活動。これから他団体と連携を図ったり、参加者を増やしたりして、イベントの広がりを期待している。

GROUP 2 鏡を見つめる会

高知市の山間部ルーツを守ろう・生かそう・発信しよう



鏡地域の文化を見直すこと、鏡地域の活性化を目指して活動している。今年度は、写真ファイルの作成に取り組み、写真を介して地域の人とのコミュニケーションを行っている。月1回開催している定例会では、メンバーが集めてきた写真を見せ合い、記録作業をする。写真をスキャンしてパソコンに取り込み、説明文も付けてファイルしている。魅力的な写真が集まっているが、まだまだ始まったばかりだと感じる。我々の取り組みを鏡地域の人にも知ってもらいたいと考え、「鏡を見つめる新聞」を作成して、鏡地域の全戸に配布した。高知新聞で活動が紹介された。

VOICE

- 鏡には、すてきな風景・文化があり、とても好きな場所。まだまだ隠れている良さを更にアピールしてほしい。
- ホームページ・ブログを利用しては?
- 一枚の写真から広がる世界に期待している。他の地域でもやってほしい。

「まちづくり一歩前へ」コース

プレゼンテーション

GROUP.1 御豊瀬ひもの祭り実行委員会

御豊瀬地域の「お祭り」による活性化とまちづくり

9月頃からポスターやチラシの制作を開始。東塩谷地区の班長会などで祭りのPRをした。10月は新聞社やテレビ局、情報誌などマスコミ各社への挨拶回り。高知県観光コンベンション協会のホームページ「よさこいネット」のイベントカレンダーに祭りの情報が掲載され、いろんな方から問い合わせがあった。ビール会社のコマーシャルにも出演。11月は、保育園や小学校にチラシを配布。おびさんマルシェでも告知をした。ホームページ、ブログに掲載しても良いかという問い合わせも多く、ひもの祭りも認知されてきたように感じる。

VOICE

- まちを元気にする、とても意義のある活動だと思う。いろいろ大変だとは思いますが、いっばいの元気を発信してほしい。
- 素晴らしいお祭り。もっともっとPRしていきましょう。
- ネットワークを活かした広報活動、大切だね。



GROUP.2 大津地区地域リハビリテーション応援団

地域リハビリテーション・サポーター養成講座

積極的な広報活動を行い、多くの参加者が集まったことは喜ばしい成果。7月に開講し、講習や実習、救急救命講習などを経て、10月に閉講。反省点としては、①一部の中学生の講義に対する意欲が感じられなかった②担当者やサポーターの数が少なかった③事前に講義の内容紹介をしてほしかった④世代間交流の場が少なかった、などが挙げられた。工夫する点としては、①事前説明をよくする②席の配置の工夫③名札立てを机に置く④受講料をとる、などが挙げられたので、今後に役立てていきたい。3月に交流会を予定している。

VOICE

- 何と言っても中学生の参加が素晴らしい!!また、問題点を認識して対策を考えていく姿勢がよかった。活動のレベルアップに期待している。
- 地域に根差す活動が期待されている。高齢者が安心して住めるので、今後も頑張る。
- 地味だけど大切な活動だと思う。人と人のつながりが大事だと思う。



GROUP.3 わくわくワークるんだ商店街実行委員会

わくわくワークるんだ商店街

11月4日の開催までに実行委員会を6回行った。9月は企業、団体への参加呼びかけと、追手前小学校へのジュニアバイザー交渉。10月はジュニアバイザーによる企業交渉。そしてチラシの配布、申し込み、抽選、企業の団体説明会を行った。実行委員に高知大学と追手前小学校も加わり、業種を24業種に、参加定員を150名に増やした。ジュニアバイザー、株の投資、インターネットからの申し込みを新たに取り組み、スタッフからは「子どもの笑顔や真剣な声が残った」、「自分たちの仕事を見直す良いきっかけになった」などの声があった。

※ジュニアバイザー=団体による造語で、アドバイザーとして関わる子どもたちのこと。

VOICE

- 帯屋町全体を使って、全国発信できるようになってほしい。
- 事業の改善点を考え、発展のために工夫していることが分かる。
- 素晴らしい事業だ。もっともっと進めよう。



GROUP.4 高知ナチュラルネットワーク

高知で見つける「自然に優しい、自然な生き方」応援プロジェクト

心も体も環境も喜ぶ食育環境講座「ナチュラルエコクッキング教室」を月2回開催。テレビや新聞で紹介されたこともあり、参加者も多い。高知の良さを再確認する体験講座「ナチュラルワークショップ」は、月1回開催。身近でできることを体験し、講師と参加者が交流を深めている。「ナチュラルフェスタ」は高知で見つけるナチュラルスタイルをテーマにしたお祭り。ワークショップや野菜の販売、そしてエッセイを募集して会場に展示し、ナチュラルガイドブックを作成したい。5月の開催に向け勉強会を行う。毎月発行の広報紙をきっかけに、輪が広がっていく。

VOICE

- 親子で参加できるのが良いと思う。
- 自然をキーワードにした、多方面からの切り口での環境活動だ!
- かなり精力的に活動されているようで、すごいと思う。「ゆるやかなネットワーク」という言葉が心に残った。



GROUP.5 NPO法人 高知環境文化21

「はりまや通り」を高知を代表する新感覚の通りにしよう!

JR高知駅の高架開通までに「はりまや通り」の愛称を浸透させることが効果的と考え、「愛称「はりまや通り」知っちゃん!?キャンペーン」を企画。①愛称標識設置等の依頼②はりまや漫画フェスタの開催③街頭での呼びかけ④学習会の開催⑤愛称表記や新メニューの依頼⑥交通機関等への協力依頼⑦モニタリングの研究、以上7つの取り組みを設定した。リーフレットを作成し、「はりまや漫画」の募集を呼びかけ、ラジオや高知新聞にも取り上げられた。だが、現在、同じ区間に別の愛称をつけてはどうかという意見が市民団体から土佐国道事務所へ寄せられており、通りの愛称に関しては、目に見えない状態となっている。

VOICE

- 土佐国道事務所、高知市役所、団体を巻き込み、面白くなっていきそう。どんどん議論しよう。
- 他の提案されている愛称より「はりまや通り」の方が、あの通りには合っていると思う。
- 分散している意見を一挙にまとめるような動きをした方が有効ではないかと思う。



二〇〇七年度中間発表会を終えて

運営委員長 ● 卯月盛夫
(早稲田大学教授)

今年度の中間発表会は昨年より参加人数も多く、お子さん、高齢の方、車いす利用の方、外国人の方と、このようにたくさんの方が高知のまちづくり活動に参加しているのだということで大変嬉しく思いました。

また、今日の発表会で「新聞やテレビ、ラジオに出ました」という話が多く聞かれましたが、高知で皆さんの活動が次第に認知されつつあるということも嬉しかったです。「御豊瀬ひもの祭り実行委員会」や「高知発達障害等親の会」「KOS E I」は、二年、三年と活動をしてきて、ひとつの節目のようなものを感じました。まちづくりファンドの助成は三年が限度ですが、その間、どのように活動し、どういった成果が得られ、輪が広がっていったかということもよく分かりました。

「鏡を見つめる会」は、古い写真を通して地域の古さとコミュニケーションをはかっている、とても興味深い方法だと思います。かつて世田谷の太子堂という所では、おばあちゃん・おじいちゃんの世代、お母さん・お父さんの世代、そして子どもの三代に、各時代の地図を見ながら、どこでどんな遊びをしたかのヒアリングをして、「三世代遊び場マップ」と「三世代遊び場図鑑」を作成したことがあります。古い写真にしても古い地図にしても、それを手がかりに市民の方々から昔の生活やエピソードを引き出すことができるので、他のグループも是非このような工夫をして欲しいと思います。「NPO法人 高知環境文化21」も、はりまや漫画フェスタに向けてイラストを募集していますね。これは関心のない人でも

子どもと一緒に考えてみようということで、ビジュアルな手法と言いますが、人間の心と感覚に訴えるようなものから入っています。

次に、「わくわくワークるんだ商店街実行委員会」では、あれだけ大勢の人が商店街に集まっていますね。ファンドで助成を受けている他の団体の皆さんも、自分たちの活動で出店するとうぐらひの発想をもった方がいいですよ。東京では、野村證券はまちづくりに参加していませんが、高知では参加しているんですね。企業などはよく、異業種交流会などで普段知り合えない人たちと出会うことで、新しいビジネスを始めようとしています。なかなかそう簡単にはいかないようです。でも、「わくわくワークるんだ」は、子どもを介して企業と企業が結びついたり、福祉団体とエコロジーの団体が結びついたりしています。

今日の中間発表会では、成果ばかりでなく、課題や問題提起もありました。「高知環境文化21」の通り名では、土佐国道事務所の方が「合意形成ができれば通称名をつけていい」とおっしゃっている。地元では、このメインストリートをもみんなにもっと愛される道路にしたいという思いは同じなんですよ。それが、それぞれの考えで「はりまや通り」、「漫画通り」、「アンパンマン通り」という三案が出ています。この活動を広げるといふ意味も含め、こういう時こそ、「高知環境文化21」の皆さんが呼びかけを行って、どういう名称が今後の高知のまちづくりビジョンにつながるのか、真剣に話し合った方がいいんじゃないかという問題提起でした。八月の最終発表会に

向けて、皆さんもぜひ応援してあげてほしいと思います。

それから、「船岡団地花いっぱい会」の水の問題。水やりというのは大変な作業で、なるべく近場に豊富な水があることが重要なわけです。水権利ではないけれど、団体と団体の関係により、お金もかかるとかたりするので、そういう課題をどうやって乗り越えるかということをお互いに大きな課題として認識しておかないといけないと思います。もし、今ある水道を利用してもらえないということになるのであれば、「大きな一歩コース」でハード整備をするということも、ひとつの方法となるかもしれません。

最後に、「KOS E I」の発達障害、「高知あいあいネット」のDVですが、最も大きな問題を抱えているのは子どもであるという意味では、楽しいことやまちの活性化を目指している「わくわくワークるんだ」のような活動と、子どもというキーワードで共通項があるわけですよ。まちづくりは楽しいことばかりではなく、その裏に潜む大きな問題もある。高知のまちづくりファンドの特性とも言えるのですが、同じグループとしてあたたかく見守り、交流をしていってほしいと思います。



GROUP.6 地域教育応援団 33フォーラム

祭りをつなぐ地球33番地の住民ネットワークづくり

お祭りが復活して、地元の人は喜んでくれている。復活させられるか心配でしたが、当日は多くの方が足を運んでくれて驚いた。まちづくりファンドで出会った人が手伝いに来てくれたりして、人とのつながりを感じるお祭りになった。お祭りをきっかけに、地元の「花いっぱい会」と小学校の子どもたちが一緒に花を植えたり、子どもたちが困っていると地元のおばちゃんたちが「こうやったらいい」と教えたり、私たちが間に入らなくても交流が生まれている。広報紙も制作しているので、是非見てほしい。

VOICE

- お祭りによって子どもからお年寄りまで、一同に楽しめる点が良いと思う。開催するにあたり、関わりが広がる点も良い。
- 失われた物や行事など、掘りおこすことの大切さを改めて感じた。
- 40年ぶりの祭り復活の後、交流や取り組みにつなげているのはすばらしい。



GROUP.7 高知あいあいネット

ともに考えよう～あなたの周りの暴力～

新しい一歩を踏み出すための自立支援と子どもたちが安心して過ごせる為の支援

暴力を受けた子どもたち、行き場のない子どもたちへの支援として、家電や居場所の提供、心のサポートなどに取り組んでいる。虐待してしまった親への回復プログラム「MY TREE ペアレント・プログラム」を高知に導入するための準備もしている。このプログラムを受けた後は、自分に自信がもてるようになったなどの効果が上がっている。発達障害をもつ子どもたちの親子運動教室を開催するための指導員養成講座も計画。保護者と一緒に地域で楽しみながら運動することで、親子関係もより深まり、地域の中で発達障害への理解も生まれるのではないかと考える。NHKの番組でも活動が紹介された。

VOICE

- 難しい問題に取り組みされている活動がすばらしい。
- 外向きには分かりづらい活動もしながら、地道な運動にも毎日のように取り組まれている様子が伝わってきた。



GROUP.8 高知発達障害等親の会「KOSEI」

子どもたちの個性・特性を地域社会に正しく理解してもらい地域社会に溶け込む運動

高知県教育センターで、「親の立場から」として講演。田中康雄先生の研究アンケートに協力するとともに講演会にも参加。高知中・高等学校では親の立場からの話、そして専門的な知識も交えながら講演した。高知県議会への要望書の作成、署名活動もしている。1月に開催した講演会では、午前の部は徳島から穴喰小学校校長の外磯やよびさんを招いて、穴喰小学校での取り組みを聞き、後日、小学校も視察させてもらった。午後の部には、(特非)大分特別支援教育室フリーラーを招き、活動の話や悩みなどを伺った。保護者、教員、指導員など多くの人の参加があり、広がりがでてきたのではないかと思う。

VOICE

- 他県との交流により、全国的な活動になるといいね。
- 発達障害については多くの方が関心を寄せていると思うが、皆さんの活動を見て、障害の有無に関係なく、子どもを多方面の視点でみつめていく取り組みは必要なことだと改めて感じた。今後社会に向けて、問題提起をお願いしたい。



GROUP.9 船岡団地花いっぱい会

健常者と障害者がふれあういきいきまちづくり

8月は住民に声がけをし、メンバーが増えた。9月は花壇の草引き、土づくりを行った。近くに水道はあるが使えない状況なので、水が使えるように交渉している。現在はこれが一番の悩みだ。一日も早くこの問題が解決するように努力していきたい。10月は大原町のイルミネーションを障害者の人と一緒に見に出掛け、11月は子ども、健常者、障害者、みんなで山北にみかん狩りに出掛けて交流を図った。12月は花、野菜、苗木を植えた。今後も多くの人に声がけをし、引きこもりをなくすと共に、みんなで活動を継続していきたい。

VOICE

- 健常者と障害者との交流ができてきたみたいで良い。
- 小さなことの積み重ねが大事だと思う。
- とてもすばらしい活動だと思う。障害者は車椅子の人が中心のようだが、他の障害をもった人への広がりも期待している。



GROUP.10 あったか高知花いっぱい会

花と光で運動公園周辺をより快適に、高知の新名所に

10月に鏡川保育園、第四小学校、大原町町内会と一緒に花を植えた。高知新聞やテレビで活動が紹介され、多くの方がイルミネーションを見に来られるようになった。宿毛や安芸など、遠くから見に来てくれる人もいる。大原町町内会も応援してくれている。35本全ての木にイルミネーションが飾り付けられた記念として、11月は「イルミネーションよさこい」という催しを開催。オリックスの野球選手2名が参加してくれ、盛大にお祝いできた。※団体としては、イルミネーションによる木への負担を考慮し、LEDの電球を使用している。

VOICE

- まちファンでネットワークが広がるといいね。イルミネーション見学会は良い企画だと思う。
- 楽しい雰囲気になり、高知の新名所になりつつある。マスコミの協力も大きいね。



「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース 第2次公開審査会

第2次公開審査会の流れ

2007年8月5日(日)開催の第1次公開審査を2団体が通過。2008年1月27日(日)に開催された第2次公開審査会には、応募団体・一般・関係者あわせて約30名の参加があり、審査の結果、1団体への助成が決定しました。

1 プレゼンテーション



応募団体が事業内容を模造紙に記載し、10分以内でプレゼンテーションを行った後、20分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が、＜公益性・地域まちづくりへの発展性・資金等の的確性・創意工夫・実現性・活動に対する意欲＞の項目ごとにA、B、Cの3段階で評価
※ A、B、Cについては下表参照

3 質疑



一次判断で示されたBについて質疑応答

4 最終判断



各運営委員が助成対象として推薦するかどうかを判断

プレゼンテーション

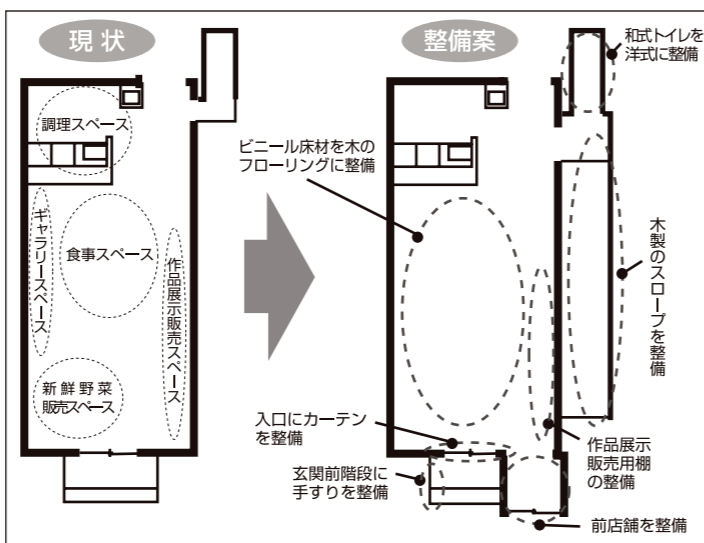
活動テーマ **地域のネットワークの中心となる場をめざして -空き店舗を利用した空間整備-**

GROUP.1 アテラーノ旭

高齢の利用者が多いので、入口のきつい階段に手すりを付け、トイレを和式から洋式に整備。車椅子が入り出できるような隣の駐車場にスロープを付けたい。そして現在の堅くて寒い床から、温かくて柔らかい素材の床に整備。地域の人たちに手芸品を展示してもらっているが、場所が狭いので、きれいな棚を取り付けたい。

以前、会員さんが入口の横で天ぷらやたこ焼きを作って販売してくれたことがあったが、外だと風が吹いたり埃がかかったりと衛生上よくないので、現在は休止中。評判も良く、売上の2割を納めてもらったこともあり、前店舗を設置して再開させたい。入口がサッシで、夜はシャッターが閉められないのが現状。防犯上よくないので、入口にカーテンを付け、閉店時は中が見えないようにしたい。

現在、アテラーノ旭はなんとか黒字で運営できており、地域の輪も広がって後継者も育ちそう。家主との契約は5年だが、引き続きお願いしたいと思う。資金確保については各自が危機感をもちながら話し合っている。



2007年度 公益信託高知市まちづくりファンド助成事業 第2次公開審査会審査結果表

第1次審査通過団体 アテラーノ旭

●一次判断

ランク	公益性	地域まちづくりへの発展性	資金等の的確性	創意工夫	実現性	活動に対する意欲
A 評価できる	■■■■■■■	■■■■■■■	■	■■	■■■■■■■	■■■■■■■
B もう少し話を聞きたい	■		■■■■■■■	■■■■■■■		
C 社会的に意義ある活動だが、助成趣旨には馴染みにくい						

質疑応答

●最終判断

助成する	助成しない
■■■■■■■	

(助成申請額300万円)

一次判断を終えての質疑

公益性

質問: 店へ気軽に入られるような工夫、雰囲気づくりは?

団体: 店内の様子分かるよう入口のついたてを移動。雰囲気づくりは専門家やデザインカレッジの人の知恵を借りたい。

コメント: 企業がお金をかけてつくるデザインと、地元の人の温かみのあるデザインとは違う。住民の温かみや手作りの良さみたいなものを大切に、お客さんや住民の声を聞きながらデザイナーも交えて取り組んでほしい。

地域まちづくりへの発展性

コメント: 整備後は高齢者や障害者だけでなく、子どもたちへの支援にも取り組んでほしい。防災の視点からも地域の守り役を担って住民が気軽に使えるようになることが次のまちづくりへと発展する。

資金等の的確性

質問: カーテンは防犯上の問題で早急に取り付けなければならないもの。ファンドの助成でという性質のものではないのでは?

団体: 現在、カーテンは取り付けしていないが、灯りがとると店の外も明るくなる。

コメント: 車いすでのトイレ利用を考えると床面積が狭いのでは?壁の取り壊しなどで床面積の確保は実現できる。経費がかかるようなら、さほど温度差はないと思うので、ビニール床材から木のフローリングへの整備を、レジ回りでよく使われているビニール製の床材にし、クッション性のあるものにすれば、50万円くらい安くなると思う。

コメント: 棚を貸し出すとか、入口のスペースをチャレンジショップのような形で若者に2~3週間貸し出すとかで、アテラーノ旭の事業性や継続性が確保されるということならば、条件付きで上限額を助成することも可能だが、「経費が安くあがりそうなので、棚をつけて上限の300万円に近づけました」というのでは市民も認めることができないと思う。

創意工夫

コメント: 住民参加型のまちづくりファンドなので、利用者や専門家の声を聞いた上での面白い工夫が大切。①床を塗るなど、思い入れをもってみんなのできる部分と、②電気や給排水のように専門の工事を業者にやらせようという部分を振り分けて考えてもらおうと良い。

団体: 地域でいらなくなった椅子を集め、張り替えてくれたり、「売って資金にしてください」と不要品を持ってきてくれたり、品々を整理して値段つけをしてくれたりする人が知恵を絞っている。

実現性

質問: 地域の中で今回の整備に反対しそうな人はいるか?

団体: 助成申請をしていることは伝えていて、楽しみにしてくれている様子。

意欲

質問: トイレの床面積を広げるために整備費用が300万円を超えてしまった場合は自己負担となるが、それでもやるぐらいの強い気持ちはあるか?

団体: 皆さんのところにカンバ袋を持って回ってでもやりたい。また、出入口の手すりや、スロープについても、時間はかかると思うが、募金を集めて取り組みたい。地域の業者は、棚をつけにきてくれたり、中古の電気製品を持ってきてくれたりしているし、企業の人は「アテラーノ旭新聞」へ広告を載せてくれたりしている。大工や建具屋も地域にいますので、整備することになれば協力してくれると思う。

事務局よりご報告

第1次審査を通過した「平田団地公園愛護会」は、2007年12月、団体より第2次審査応募申請の取り下げがありました。

第2次公開審査会を終えて



副運営委員長
玖波井 加代子
(ひと&カラーコーディネータ)

今回は、ハード部門の助成先が決定し、第1号が誕生して本当に嬉しいです。しかも、まちづくりのために理想に近い活動を実践していらっしゃる団体なので、頼もしいかぎりです。これからも、この部門のモデルとなるよう頑張ってください。



運営委員
産田 節雄
(元高知市都市整備部長)

旭地区は今後、行政が「旭地区のまちづくり」として取り組んでいくように聞いていますが、まちづくりは、そこに住んでいる人が「私たちの町」であることを誇りに思うこと、愛することから始まると思います。そういうソフト面の取り組みが重要ですので、地域の方々と協力し、積極的に対応してもらえればと思います。



運営委員
四宮 成晴
(四宮設計事務所)

2度にわたる審査、応募者の気持ちを考え、改めて祈を直し、慎重かつ真摯な気持ちで望みました。それぞれの運営委員、取得第一号を生み出すにあたって異なる切り口からの考察により議論が高まり、出席者全員、さまざまな視点より「ハード事業」を俯瞰しながら再勉強するいい機会になったと自負しております。



運営委員
玉里 恵美子
(高知女子大学准教授)

アテラーノ旭が多くの地域住民に認められ、交流の輪をどんどん広げることができたのは、地域住民のニーズに応じた学習会の開催やイベント実践の積み重ねがあったからだと思います。これからも地域住民の声に耳を傾け、時にリーダーとして、時に線の下での力持ちとして地域の拠点作り頑張ってください。



運営委員
森本 智香
(えほんの店「ココロ・サン」)

アテラーノ旭のような活動が町を元気づけるのだなあと実感しました。しかし、活動には、いろいろな障害があることも実感。活動をサポートするコーディネーターの重要性を感じました。皆さんの熱い思いと行動力に圧倒され、自分の活動も省みるチャンスとなりました。



運営委員
半田 雅典
(高知県ボランティア・NPOセンター)

地域の暮らしの課題を、地域の人たちで解決しようと取り組んでいるアテラーノ旭。今回の拠点整備により、地域のアットホームな場所としての機能をより一層高め、皆が心豊かに安心して暮らせる「私たちの旭」づくりをすすめていくことを期待しております。



運営委員
堀 洋子
(社)高知県建築士会)

ハードコース初の助成団体にアテラーノ旭が決定しました。区画整理の未整備地区で高齢・障害者も多く、「まちの茶の間」として誰もが集える場をめざし、車椅子利用者に対応できる店づくりのハード整備。東南海地震が起きると予想される中、「安全・安心なまち」の拠点として、より多くの人が集える場になればと思います。



運営委員
増田 和剛
(高知中・高等学校教諭)

まちづくりは町の空気づくりとも言えます。活動が一つの形を見せたとき、それは、りっぱな町の景色になった瞬間だと思います。その景色づくりを、意識することによって活動自体にも責任が生まれてきます。このような景観を意識した「まちづくり」はこれからの時代に必要ない「まちづくり」への配慮かもしれません。



運営委員
宮地 貴嗣
(ラ・ヴィータ 宮地電機機)

今回、初めて審査に参加させていただき、大きな感動を受けました。高知市のまちのことも考え活動している方がたくさんいらっしゃる、また、真剣に、そして利他の心を持って活動されていることに感銘を受けました。私も微力ながら皆さんの活動を応援していきたいです。